

約1800社の日系企業が アジアの拠点として進出

2002年の経済成長が2・2%とプラス成長となったシンガポールでは、2003年の経済見通しも2%から5%の伸びを予想(外務省発表による)し、アジア経済の拠点として注目を集めている。このような状況のシンガポールでは現在、日系企業がおよそ1800社進出し、これらの多くの企業が即戦力となる実務経験を積んだ人材を積極的に求めているという。

職務経験と語学力 幅広い分野で求人

シンガポールは英語圏であるため、アメリカでの職務経験を通じて、英語を使ったコミュニケーション能力に優れた人材を求めているのは納得できる。また、前述したようにアジアの拠点として近隣諸国との交流も多くなるため、日本語と英語のほかに、3つ目の言語ができる人材は活躍の場がさらに広がる。しかし、語学力はあくまでも前提。即戦力となるアメリカや日本での職務経験も当然重視されることは言うまでもない。

ニューヨークからシンガポールへの転職斡旋を今年4月から始めている「MAX・コンサルティング・グループ」代表の名倉氏によると、一般的に商社や金融の営業職、経理やIT関係も含めた技術系のマネージャークラスからアシスタント職まで幅広い求人が、現在1日平均3件ほど入ってくるという。

だ。この期間は余裕を持って2ヶ月くらい。アメリカ国内での就職と比べると手間や時間がかかるが、現地からもアメリカにまで求人を求めてくるという事は、現在のアメリカでの就職事情によって能力があるにもかかわらず日本に帰国せざるを得なくなった人材に注目しているという事でもある。

アジアの拠点として注目のシンガポール 日系進出企業が経験豊富な人材を募集

綿密な適性判断の後 最終面接は現地

業種や企業によって一概には言えないが、ニューヨークからシンガポールへの就職を考えた際、具体的な就職の活動はMAX社のコンサルタントとの間で求職者と求人情報のマッチングから始まる。つまり求職者の職務経験と業務内容や求められる人材との適正判断などを含めた面接である。その後両者の意思が一致すると、実際にシンガポールに向いて最終面接というのが一般的な流れ

求められるのは職務経験 国をあげて移民を歓迎

海外で働く人にとって大きな問題となるのがビザの申請。アメリカで能力があるにもかかわらずこの問題で働くことのできなくなった人も多いため、シンガポールでは比較的ビザ取得にかかる負担が軽いと言われている。ビザ申請の際に求められるのは職

務経験のみ。日本で数年働いた後アメリカに来て大学に留学していた人など、勤務にブランクがあっても問題は無い。また職務経験がない場合は、大学院のマスター・デグリー以上を持っていれればよい。職務経験や大学院での内容が申請するシンガポールでの仕事の内容と一貫性を持てば、就労ビザを取得するのに弁護士を雇う必要もなく、およそ30ドルほどで申請ができるという。MAX社のコンサルタント井島氏によると、「条件面では障害となる問題はほとんどありません。最後はシンガポールでの面接などが設定された際に、本人の決断力と行動力が重要になってくる」と言う。



MAX Consulting Groupの名倉社長(右)とコンサルタントの井島氏(左)

ニューヨーク近郊を中心に全米の主要都市、また日本の求人案内を豊富に取り揃える人材派遣・紹介の「MAX・コンサルティング・グループ」。これらの求人のほか、今4月よりシンガポール大手人材会社と業務提携をし、同社ホームページにてシンガポールの求人情報の提供を開始している。

MAX Consulting Group, Inc.
317 Madison Ave, Suite 1418
TEL: 212-949-6660
www.maxjob.com